

Hi, あきしま

vol.37
2014.3

特集

男女共同参画講演会
真打落語家の笑いで聞く！
「私らしいワーク・ライフ・バランス」

- 男女共同参画セミナー
デートDVについて～理解と支援のために～
- 男女共同参画講座
『DVを含めた暴力について』

コラム 多様化を力に

●BOOK GUIDE

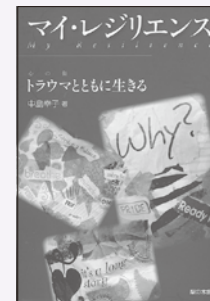
『マイ・レジリエンス』
『母という病』ほか



BOOK GUIDE

今年度購入した本は、男女共同参画ルーム「おあしす」にあります。
問合せ先 企画政策室 042-544-5111 内線 2373

マイナスをプラスに変える力！



『マイ・レジリエンス』
—トラウマとともに生きる—

中島 幸子 著
梨の木舎 2013年4月

トラウマ（心の傷）に気付き、それと向き合い、傷を癒す方法を学んだ著者が語る経験の一つひとつは、悩み苦しんだ人間にのみ語ることのできる「回復」への道標が示され、真摯に向き合ったメッセージとなっている。著者は、傷ついた女性たちが「複雑なトラウマの理解を深め」、自身を「大切に思える」よう、また「トラウマの経験がない人」はそれがもたらす「影響」を知り、傷ついた女性への「理解を深める」ことを願い、本書を書いている。

フツウに働くことができない若者のリアルな姿とは？



『大卒だって無職になる』
—“はたらく”につまずく若者たち—

工藤 啓 著
KADOKAWA エンターブレイン 2012年10月

若者の就労支援団体「育て上げ」ネットを設立した著者が、現代の若者たちの“つまずき”から“立ち直り”までを6つの物語で語る。有名国立大学を卒業したがひきこもりになってしまった若者、人生初の挫折は退職で、それまで一度も失敗をしたことがない若者、親に安心してもらいたいと自分自身の意に染まぬ離転職を繰り返す若者。彼らが小さなきっかけや出会い、人とのつながりで前に進んでいく姿を紹介する。

自分自身の人生を見出すには！



『母という病』

岡田 尊司 著
ポプラ社 2012年11月

子どもは誰でも自分を産んだ母親に愛され、可愛がられることを求めるが、それが得られない時、生涯に渡りそれにこだわり続ける。「母という病はその人の存在の根底にかかわり、人生を大きくかえてしまうほどの影響を及ぼす」という。成長しても、うつや摂食障害、対人関係、子育てなどの精神的な問題の要因となるのが、母親との関係にあるという。医療少年院に勤務し、若者の心の問題に向かい合ってきた精神科医が語る。

その他、今年度購入した本

- ◆『「育メン」現象の社会学』
—育児・子育て参加への希望を叶えるために—
石井クンツ昌子著 ミネルヴァ書房 2013年4月
- ◆『さとり世代』
—盗んだバイクで走り出さない若者たち—
原田曜平著 KADOKAWA 2013年10月
- ◆『家事労働ハラスメント』
竹信三恵子著 岩波書店 2013年10月
- ◆『妻と夫の定年塾Ⅳ』
西田小夜子著 中日新聞社 2013年9月
- ◆『危機をのりこえる女たち』
—DV法10年、支援の 新地平へ—
戒能民江編著 信山社 2013年7月
- ◆『虐待・いじめ 悲しみから希望へ』
—今、私たちにできること—
楠凡之著 高文研 2013年8月
- ◆『ジェンダー論をつかむ』
千田有紀・中西祐子・青山薫著 有斐閣 2013年3月

INFORMATION

女性悩みごと相談

無料

家族関係、からだ、心の悩みなどはありませんか？
女性フェミニストカウンセラーが相談に応じます。
お気軽にご利用ください。

相談日：毎週水曜日 午後1時～4時
(祝日・年末年始は除く)

相談時間：一人50分

場所：市役所3階 小応接室

相談方法：電話または面接

利用方法：予約制 TEL 042-544-5130 (直通)



「Hi, あきしま」についてのご意見・感想などは、下記までお寄せください。

*郵送

〒196-8511 昭島市田中町 1-17-1
昭島市企画部企画政策室 男女共同参画担当

*ホームページ

昭島市トップページ
「市民の声」→「ご質問・お問い合わせ」
を選択し、送信してください。



特集 真打落語家の笑いで聞く！

「私らしいワーク・ライフ・バランス」

講師：落語家 春風亭 鹿の子 師匠（落語芸術協会所属）

典型的な男性社会である落語の世界に飛び込み、さまざまな因習のなかで結婚、子育てをしながら真打に昇進し、遅しくもあてやかに人生を切り開いてこられました。

今回は男女共同参画をテーマにした落語に加え、ご自身の体験を楽しく語っていただきました。



（講師プロフィール）

平成	8年	春風亭柳昇に入門
//	9年	「春風亭鹿の子」で前座修行
//	13年	二つ目に昇進
//	15年	柳昇逝去後 小柳枝門下となる
//	22年	真打に昇進



まず、「まくら」から

壇上には赤い演台に紫の座布団が置かれ、落語の高座仕立て。出囃しに乗ってあてやかな着物姿で現れ、まずは「枕」から。

今日は堅苦しい話は一切いたしません。大いに笑ってほしいと思います。笑いは脳にも美容にもいいんです。1回笑うと、1分間に17kcalほど消費するんです。いったい誰が計測したんでしょうねえ、こんなこと。

笑いじわは横にできます。だから横じわはいいんですよ。怒って眉間にできる縦じわはいけません。



なぜ、男性社会の中へ

自己紹介を兼ねて、落語界という男性社会での苦労を軽やかに笑いに包んで。

いま日本には、558人落語家がいいますが、その中で女性は10人足らず。もう絶滅危惧種、典型的な男性社会です。何故そんな職場に入ったかつて？私はずっと下町生まれで落語が好きでした。それに加えて、「ひ」の発音が「し」になってしまふ。「ひこうき」が「しこうき」になっちゃう。みんなにバカにされ、コンプレックス



家族の情愛、落語でしつとり

この後「三行半、駆け込み寺」の落語。そして離婚は子どもが最大の被害者ということで、最後は子思いう家族の情愛をしつとりと落語で語ります。

—— 大店へ奉公に出ている孫娘「おきみ」が、数入で3年ぶりに里に戻ってくる。
待ちわびる祖母と母。帰ってきたらあれもしてやりたい、これもしてやりたいと、前の晩は夜が明けるまで寝つかれない祖母。呆れかえる母。——

祖母「おきみに温ったかいおまんまをね。それから納豆が好きだからいっぱい用意してさ。それから、ウナギも好きだからね、それと刺身。そうだと天麩羅も、すき焼き、お蕎麦……」

明日はおばさんとこへ連れてってやるうじやないか。おきみを可愛がってくれたから大きくなった姿を見て涙を流すよ。それから江の島へ行つて、お伊勢参りもして、京、大阪を見物して。うん、明日一日で行くんだ」
—— いよいよおきみが帰ってきた。涙で目も開けられない祖母。そしておきみが湯に行っている間に、ふとおきみの財布を覗いた母が10円という大金を見つける。——



小咄と形態模写で和やかに

会場を和ませるため、ここで小咄と形態模写。それは「電車の中の化粧」。百面相のような仕草に会場爆笑。
次に、落語の「寿限無」を披露。その後「寿限無、寿限無……」という文句を聴衆を巻き込み何度も唱え、会場も和んで。

祖母「こんな大金、お前まさか店のお力ネを！」
おきみ（涙ながらに）「そんなんじゃないんです。このお金はネズミの抽選で当たり、旦那様が里へのお土産にもつていけと……」
（当時はネズミを捕まえて届けると報奨金が出た）
祖母「どうりで、ゆんべは、ネズミに待ってた」

〈講演を聞いて〉
話を聞いて、私は落語の「芝浜」を想い出していました。

「腕はいいが酒飲みの魚行商人。芝浜で大金入りの財布を拾い、たちまち仲間と大酒をくらって寝てしまふ。翌朝女房は支払いをどうするとお力ンムリ。拾った財布なんて見たこともない！」と。
すっかり改心した夫は、断酒して死に物狂いの働きぶり。3年後、店も持てて成功者になった。実は、女房が財布をこっそり番所に届けていた」というお話。

—— 人の道を誤るところを、真人間へと引戻してくれた妻の機転。飲んだくれから懸命に頑張ってきた夫の労。——
これも「男女共同参画」の形ではないのかな、と思った次第。
お後がよろしいようで！



子育て、夫の協力で救われる

結婚してから落語と家庭生活の両立に悩まれたとか。とくに出産後は、子育てのために言い知れぬ苦労があったようです。そんな苦しい時期もさりと笑いで。

生涯独身でもいいやと思ってました。ところが自分の打上会の席に出ていたお客さんに私の方がぞつこん。苦労してやつと落としましたよ！
赤ちゃんがお腹にいても、落語を休むわけにはいけません。臨月まで高座に上がりました。袴を履いて大きなお腹を隠しながら。

会社勤めの夫と2人だけの子育て、私は高齢出産で体はもうボロボロ。眠れない、食べられない、泣きやまない、相談する人もなく、どうしたらいいかわからない。このときはほんとに、もう落語をやめようかと悩みました。

そんな私を救ってくれたのは、やはり夫でした。憔悴した私を見て、これは大変だ！と思ったのでしょう。おむつ替え、ミルク授乳、お風呂、家事のサポート、ほんとうによくやってくれました。

こうして落語をやっていただけるのは、夫のこの協力があればこそです。



共働きの苦労は川柳でさとり

深刻な苦労話のあとは、共同参画にちなむ「鹿の子さん」自作の川柳をいくつか紹介。聴衆の肩から力が抜け、ほっとするひとときが会場を包みます。

共同参画にちなむ川柳をいくつかご紹介しよう。

こんな川柳をそつと呟いてみたら、もしかすると自然に笑みがこぼれ、ストレスが解消するかもですね。

- 晩ごはん時短メニューが母の味。
- 増えたもの小言体重しみに皺。
- 減ったもの貯金愛情旦那の毛。
- イクメンにうまく育てる妻の知恵。
- 参画に励み家庭が丸くなる。





デートDVについて～理解と支援のために～ 「幸せになる力はどこにあるかを考える」

11月12日から25日（女性に対する暴力撤廃国際日）までの2週間を国では女性に対する暴力をなくす運動期間と定めています。それにちなみ平成25年11月13日（水）に、昭島市保健福祉センター（あいぼっく）視聴覚室において、NPO法人 レジリエンス代表中島幸子さんを講師としてお招きし、DV講座を開催しました。その内容の一部を紹介いたします。

＊レジリエンスの活動

レジリエンスには、主に2本の柱があり、一つは今回のような講演や研修を行うことで、全国を回っています。テーマはDV、デートDV、性暴力、トラウマ等の話です。もう一つは、傷ついた女性に通える講座を表参道、四ッ谷、戸塚の3箇所で行っています。これは女性ならどなたでも参加できる講座となっています。

＊デートDVとは？

デートDV（交際中の恋人間で起こる暴力）とDVは別かというところ、そうではありません。基本的にDVの中の一部として、デートDVが存在します。どんな問題であっても暴力以外の解決方法は必ずあります。しかし、デートDVでは「待ち合わせにいつも遅れて来るから、ついカッとなって殴った」「何度言っても分らないから嫉妬のためにやった」等、デートDVに限らず、あらゆる虐待の中でも同じような発言があります。

しかしながら、全てにおいて暴力以外の解決手段は必ずあります。

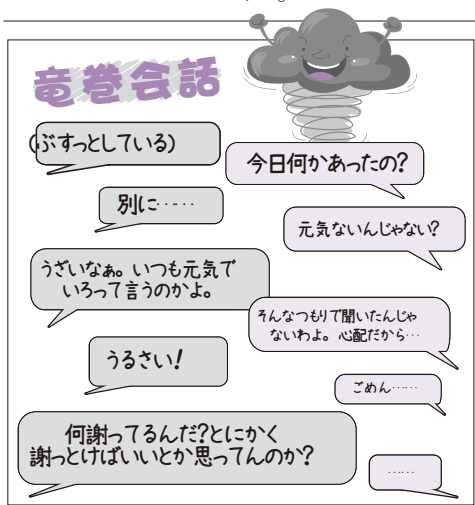


の部分が残っているからです。この土台の部分でトラウマであり、トラウマは心の中に残るのです。深い心の傷つきを「トラウマ」という言葉で表すなら、どの暴力であろうと、トラウマにつながる可能性があるので。

＊竜巻会話

左のような会話を竜巻会話と呼んでいます。この会話はあとで思い出すのが大変な会話なのです。なぜかというところ、この会話は論理的なつながりがないので記憶しにくいからです。

健全なコミュニケーションは、キャッチボール形式で、相手が受け止めやすいボールを自分が投げて、相手も同じようにすることによってキャッチボールが続くのです。竜巻会話では、一方が投げているボールはキャッチボールなのに、もう一方が投げているボールは、ドッジボールなのです。「バシッ」と当てられるようなボールではキャッチボールは不可能です。

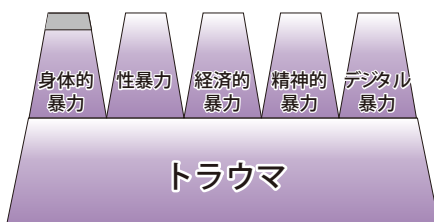


約束で時間通りに守れない人がいたら、「次回は5分待つけど、その後は先に行くんね」など、いろいろな方法があります。暴力という手段を選んだことに、百パーセント責任がかかります。相手が悪いから暴力を振るったという説明の仕方は問題のすり替えにすぎません。周囲や支援する人には、そこに惑わされないようにしていく必要性があります。

＊DVの種類

暴力の種類をここでは5つに分けています。世の中でDV、デートDVと言う時に多くの人がイメージするのは、殴る、蹴る等の一部の身体的暴力を想像されることが多いです。しかし、それだけがDVではなく、言葉の暴力や性暴力を振るったり、精神的、また経済的に人を追い詰めたりの方法があります。

他のタイプの暴力とは違い、今挙げたようなタイプはなかなか見えにくいので、傍から理解されにくいのです。傷跡も目に見える形としては残らないため、なかなか理解してもらえないこともあります。



図① 暴力の種類

＊幸せになる力

映画などでは白馬の王子様のようなストーリーがよくあります。若い子たちはそんな王子様を夢見たりしていますが、実際には魔法でもない限り、誰も他人を幸せにすることはできません。

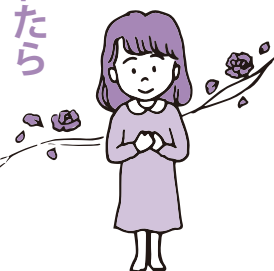
一人ひとりが努力して、お互いのことを考えながら協力し合えば、幸せになれるかもしれませんが、その力は自分の中にあります。自分の外ではないのです。誰かが自分を幸せにしてくれるのではなく、女性であろうと男性であろうと誰であろうと、自分なりの幸せを得るための力は、常に自分の中にあるのです。

暴力と尊重は両立不可能です。DV傾向にある人は、自分が世界基準みたいに思っていることが多く、そこには竜巻会話のように、相手に対する尊重がありません。

これはパートナーシップだけのことではありません。子どもに対して、親に対して、友達、同僚に対して尊重が欠けているというシーンがどこにもあります。

＊相談されたら

DVに遭っている、もしくはそうかもしれない人に向かって言うよくありがちな言葉に、「なぜ別れないの？」があります。これは「別れないあなたにも非がある」と言っているのと同じで、二次被害になる恐れがあります。



◆身体的暴力

必ずしも身体に直接触れるものばかりではありません。例えば、眠らせない、延々と説教をする、具合が悪くても病院に行かせない、薬を取り上げる、監禁する等、これらは全て身体に大きな影響を与える要素が含まれています。

◆性暴力

性暴力Ⅱ見知らぬ男性が女性をレイプするというイメージが大きいのではないのでしょうか。しかし、実際には親しい人からの性暴力の方が圧倒的に多くあり、夫婦間のレイプ（マリタルレイプ）も存在し、刑法に規定されている国もあります。

子どもに対する性虐待も性暴力です。痴漢もそうです。デートDVで言うなら、性癖の押しつけや避妊に協力しない、嫌がることを強要する等があります。こういうことを知らないと、自分が性暴力に遭っていても気づかない場合もあり、助けを求めにくくなってしまいうことでもあります。

◆経済的暴力

お金を使って人の自由を奪うことなどです。パートナーを働かせず自由になるお金を与えなかったり、また働かせて全部お金を巻き上げたりするタイプもいます。

DV、デートDVというのは、暴力が発生していない時間も、常にハラハラし続けなくてはならず、生活のストレスレベルは非常に高くなります。

◆精神的暴力

心に傷を残す暴力です。心は目に見えるものではありませんが、その心で感じるということをしています。その感覚

◇2次被害になる恐れのある言葉◇

- ・なぜ別れないの？（→責めている）
- ・あなたがよほどのことをしたからじゃない？（→暴力が悪）
- ・そんな大したことではないんじゃない？（→尊重に欠ける）
- ・私もそうやって束縛されたい。愛されてるのね。（→束縛は自由を奪う）
- ・私が抗議してくる。（→相談したことが分かってしまって危険！）
- ・どうしてもっと早く言わなかったんだ！（→否定的で責めている）
- ・なぜ？どうして？（→傷ついた人へは慎重に！）

また、周囲が「耐えなさい」とか「あなたも怒らせないように」と言うことは、「相手の支配下に入りなさい」と言うことと同じです。

「なぜ」や「どうして」は悪い言葉ではありませんが、これまで加害者が悪用していた可能性が高く、「なぜお前はこんな事が出来ない」「どうしてお前は馬鹿なのだ」というような言い方をしていたかもしれない。傷ついている人と会話をする時には、このような言葉はなるべく避けるという選択肢も検討していただければと思います。

参加者の声

～講座に参加して（アンケートより）～

- 誰かに幸せにしてもらうことは出来ない。一人ひとりが努力してお互いに幸せになる…感動しました。
- 私と子どもとの間にはきちんと尊重が存在するか、少し考えてしまった。
- 複雑な日常の関係の中に、実に多くのDVが隠れていることを、改めて知りました。

は一人ひとり異なります。

ある人が暴力を振るわれる際、毎回舌打ちをされているとします。もしその人が舌打ちされることに恐怖感を感じるのであれば、それは暴力となります。また別のある人にとっては暴言だった、無視されることであったり、ものを隠されたり壊されたりすることかもしれない。命令口調のメールかもしれない。着信拒否されることかもしれない。本当に人様々なので、それを否定するのではなく、尊重することが大切です。

◆デジタル暴力

10年前には無かった言葉で、インターネットや携帯、スマートフォンを使った暴力を言います。ネット上に悪口を書き込むことや、裸の写真を勝手にアップする等、残念ながらその種類は増え続けています。特に若い人たちのデートDVに多い傾向があります。

若い人たちは新しいサービスをどんどん取り入れていきますので、大人たちは若い人たちがそういう暴力に巻き込まれやすい立場にいます。また、この類の暴力は増え続けていることを知る必要性があります。

◆暴力とトラウマ

これまで5つの暴力についてお話ししましたが、ではこれらの暴力を振るっている人がある日いなくなったとします。すると、暴力はなくなるわけですから、図①の上の5つの山の部分が消えるような状態になります。しかし、それで急に楽になるかというと、それは少ないはず。なぜかというと上の部分（暴力を振るう人）がいなくなったとしても、下の部分、土台

コラム

多様化を力に

戦争があったことを知っている日本人が、どんどん減っていつている。マンガ『はだしのゲン』が小学校の図書館にあるのは子どもには衝撃が強いのではないかな？

…と、話題になったことは、まだ記憶に新しい。なくすことが是非かと議論したいのではない。ただ、今も、私達は少なからず、戦争の残骸という名のトラウマと戦っていると感じずにはいられないのだ。

先日、ある講演会に出席してきた。内容もよく調べずに行ったその講演会は、夜の飲み屋で行われた。

「We are 親戚！」と、叫びながら店内に入ってきた男の頭には、大きなレモンの被りものが乗っていた。

ご存知の方も多いただろう。ラジオ番組で『子ども電話相談室』やNHKの『バリバラ』の司会を務めている山本シュウさん。通称レモンさんだ。なるほど、頭のレモンに納得した。

関西弁で繰り広げられる痛快なトークは、沢山の笑いをおこすが、それだけではない。PTA名誉会長の別名を持つ彼には、いくつかの持論があった。そのひとつに「昭和チップ」というのがある。そのチップが入っている人は、どんなことでも根性で乗り切れる！…と思っている。

語弊があるかもしれないが、愛のムチと唱って暴力によるしつけが当たり前にあった時代だ。平成になって明るみになってきた、有名スポーツ校の教師による体罰。そして、体罰で運動能力が上がる事はないと、科学的に証明された事実。

レモンさんの言葉を借りるなら、「お節介なええとこもあつたけど…あれ？ 何か、昭和っておかしなところもあつたかも！？」で、ある。

昭和と平成の歪みは、ところどころに見え隠れする。平成の子に「昭和チップ」を入れようとしてみたところで…。さて、一体、何が伝わるのだろうか。

今号で紹介した「デートDVについて」レジリエンスは、2003年に発足された。

内容は、P4～P5を読んで頂くとして、ここでは、DVの加害者について焦点を当てたい。

さて、DVの加害者とは一体、何者なのか？

今回のセミナーは、そのことには触れずに終わってしまった。次回の都内で行われるレジリエンスの講座内容を調べると、DVの加害者についての話が聞ける

のは、まだ随分と先である。ネットで検索してみたら、答えのようなものがいくつか出てきた。そのひとつに「DVの加害者は、何かしらのトラウマによって加害者になってしまっている」とある。

— また、「トラウマ」である。

トラウマによるトラウマが新しいトラウマを産み、まさに人間は、トラウマ製造機である。家族内のことであれば、三代で終止符を打つことができる、と言われているが、どうだろう。

「DV」「いじめ」「ニート」など、日本の抱えている問題に、終止符の兆しは見えるだろうか？

「トラウマ」には必ず原因がある。では、今の日本のトラウマの原因は何か。昭和に何があったか？

— “戦争” である。

「お国の為に死んでこい」と、我が子を戦場に送り出した。軍事教育が、戦争があったのである。

かく言う私も、戦争を経験したことはない。戦争の知識は、教科書・映画・『はだしのゲン』である。小学校の時に、ゲンと共に焼け野原に立ち、ゲンと共に近所の病人の皮膚に湧くウジを取った、仮想体験だけである。

それでも尚、あの時に抱えてしまった日本人の傷が、今もトラウマとなって色濃く残っていると考える。それは、飛躍しすぎであろうか？ “戦争” という大きな過ちに、すべてを詰め込もうとしているだけなのかもしれない。

ただ、ひとつ言おうとするなら、どの時代の人間もみんな必死に生きてきた、と言うことである。必死に生きてきた中で、同時に、おかしなところも生まれてきた。でも、時にはそれらを修正し、改善し、そしてまた間違えて。繰り返し繰り返し、生きてきたのである。

トラウマと共に生きて行くことはできる。人は、案外に強いものだ。笑いで飛ばせる人には、一緒に飛ばしてもらおう。回避の方法や、抱えて行く方法を知っている人には、教えてもらおう。

時代の流れ方が早過ぎて、少し目が回ってしまった現代。いたるところで、多様化という言葉が耳にする。人によっても、生きてきた時代によっても、答えは多様化しているだろう。

レジリエンス (Resilience) という言葉は、英語で「様々な形の力」を意味するそうだ。

「We are 親戚！」と、みんなで叫ぼうとは言わない。だが、多様化を力に変えるには「自尊心」「アイデンティティ」と同時に、「相互に尊重すること」が不可欠なのは、言うまでもないだろう。

(A Z)

Hi, あきこちゃんの男女共同参画講座

『DVを含めた暴力について』

Takako.

男女共同参画にはDVの話がよく出てきますがDV(ドメスティック・バイオレンス…夫婦間・パートナー間での暴力)は、自分には無関係だと思いませんか？

でも…DVを含めた色々な暴力は、実は、けっこう身近にあることなのです。

殴る・蹴るの暴力もあれば…

無視や言葉の暴力やいじめ

児童虐待

上司などからのパワーハラスメント

パソコンやケータイ等のデジタル暴力

などなど・・・

これらの暴力は、たまたま自分には関係がなくてもいつ自分の身の回りにおいてもおかしくないのです。自分には無関係だと見過ごさないで暴力に気付く目を持ちましょう。

暴力に気付いたら、まずは相談してみましょう！はずかしいことではありません。気付かないフリをしないで暴力から身を守りましょう。

★人権侵害・家庭内のもめごと・近隣問題★

人権身の上相談(予約制)
相談日時●第4月曜日(祝日は変更)
PM1:30～4:30(1人60分)
昭島市オンブズパーソン・市政相談担当
TEL042-544-5122(直通)

★差別や虐待・パワーハラスメントなど人権問題★

人権擁護委員にご相談ください。
東京法務局人権擁護部 常設相談所
TEL0570-003-110 AM8:30～PM5:15

★心配ごと相談所★

民生委員があなたの様々なご相談に乗ります。
相談日 ●毎週水曜日(昭島市保健福祉センター あいぼく 1階相談室)
●毎週金曜日(昭島市民交流センター 2階)
相談時間●PM2:00～4:00
予約不要・直接相談所へ
昭島市社会福祉協議会
TEL042-544-0388